県民生活・土木交通常任委員会資料 6
平成 30 年（2018 年）3 月 12 日（月）
県 民 生 活 部 文 化 振 興 課

新生美術館整備に係る意見聴取の概要および今後の対応について

1　意見聴取について

新生美術館の建築工事の再入札に向け、設計の見直しに対する考え方を中心に、今後の新生美術館整備について、関係者・有識者等から幅広く意見を聴取した。

（1）意見聴取期間

平成 30 年 1 月 18 日～平成 30 年 2 月 9 日

（2）設計見直しにあたっての基本的な考え方

ア　関係者・有識者等から意見を聴取しながら、設計の見直し案を検討する。
イ　設計の見直しにあたっては、新生美術館基本計画のコンセプトを実現することを基本とし、平成 29 年 1 月にとりまとめた実施設計をベースに、設計の見直し案を検討する。
ウ　美術館本体工事費 47 億円の遵守に努める。

（3）質問事項

ア　新生美術館に対し、最も期待することは何ですか。
イ　新生美術館基本計画を踏まえ、優先的に整備すべき施設（室・スペース）・事項は何ですか。
ウ　機能充実に向けて、ソフト面での工夫等のアイデアがあればご教示願います。
エ　県立図書館をはじめ、びわこ文化公園全体での連携強化に向けて、アイデアがあればご教示願います。
オ　その他、新生美術館整備に向けて、ご意見やアドバイスがあればお願いいたします。

（4）意見聴取者

別紙（P11～12）のとおり

2　意見聴取の概要

（1）みんなで創る美術館円卓会議（平成30年1月30日開催）

ア　プロジェクト全般

・　ここまで積み重ねてきた計画、できるまでに様々な苦労もあり、お金もかかったと聞いている。それがあるからこそ、今がある。県民に滋賀の美術をどう知らしめて、どう世界に発信するかをここであきらめてしまうと、ただの箱を作ったということになってしまいかねない。そういうあきらめ方はしたくないと思う。

イ　設計の見直し

・　整備の一部を取りやめるに当たっての根拠、優先順位をどうするか。創造との出会いの場、頼られる存在、情報交流棟の意味合いや位置づけを広く示していく必要がある。
・　今回の入札結果の対応で、改めて設計を検討する際には機能を減らすことだけではなく、その対案が検討されているはずだと思う。そこを含めて議論をしなければいけないのでは。

①展示室・収蔵庫
・　展示室、収蔵庫を優先するのは理解できる。
・　展示室の使い方、組み合わせ方をよく検討しておく必要がある。

②情報交流棟
・　情報交流棟がなくなるのは残念。施設が無くなっても、ここの機能をどう実現するか考えなければならない。

③飲食機能

④ギャラリー・講堂

⑤エントランス・アプローチ
・　プロポーザルの講評では、講堂やエントランス、ラーニングゾーンが評価されているなかで、設計の見直しで示された内容は齟齬があるように思える。

ウ　びわこ文化公園内での連携

・　隣に図書館があるが、図書館でも設備改修の課題はある。保存や教育、人が触れあうということを考えると、一つのゾーンとしてまとめて考えられるのでは。
・　交流スペースについて、図書館と一緒になって共有できるスペースがあってもよい。

エ　その他

・　この計画を実行するためにいくら足りないのか。例えば数億円足りないのであれば、あと何億円なんとかしたいということを、県民の皆さんに問いかけ、理解を深めてもらうこともあってよいのではないか。
・　安く予算内で収めることも大事だが、どうしてもこれからの未来のためにこれだけ必要と訴えることを考えてみては。
・　琵琶湖文化館は建設時に寄付を集められたが、そういう考え方はできないか。
・　持続的に情報を出しつつ議論を続けていかないと、みんなの興味が薄れてしまう。今回のことをきっかけに、設計のことと同時によりよい形で議論しながら、これからの美術館を考える場づくりが必要。
・　閉まっている期間が長いからこそ、みんながワクワクするような情報発信とその具体的な話ができたらいい。
・　予算内で、削るべきところは削ったらよいと思うが、ソフト面での工夫が一番大切。

（2）新生美術館整備推進専門家会議（平成30年2月6日開催）

ア プロジェクト全般

- 新生美術館で新しい地域の特性を活かしたユニークなものをつくろうというスタンスは間違っていないと思うので、それが滋賀県のブランディングとして成功するような内容をきっちり固めてほしい。
- 新しい美術館ができることのインパクトは大きい。なかなか人が来ないことが課題、出発点でもあったはず。建築面も含めてプレゼンスを高めることが美術館の潮流。前向きに検討していただきたい。
- 早く琵琶湖文化館にあるものが公開できるように。文化館が閉まって 10 年。常時展示できる場所が必要。早くきっちりとしたものを建ててもらうことが重要。
- なぜあんなに現代作品が近美に集まっているのかということも普通の人は知らない。なぜあるかをもっと積極的に言ってもよいのでは。アメリカ現代美術が常設で見られる場所は関西には他にない。
- 郷土ゆかりの作品や日本美術院の作家を中心にした近代日本画、小倉遊亀さん、山元春挙さん、野口謙蔵さんなどの作品は特色もあり、芸術性も非常に高い。
- アール・ブリュットが入ることで福祉関係の人も関心を持ちやすい。

イ 設計の見直し

- ３つの柱をどう重点化していくかということと設備は関わってくる。今の案はバランス良くやろうとしているが、施設も均等配分すると、外から見ると何を打ち出そうとしているのか分かりにくい。
- 選択と集中をしっかりしてほしい。取りやめた場所を、結果として良かったと言えるように。
- 施設を止めるからできないではなく、代替機能を持っておいたほうがいい。

①展示室・収蔵庫

②情報交流棟

- 情報交流棟は無くなってよい。建物ができたからそれでいいじゃないかという議論になりかねない。建物でなく内容で勝負。それより地域と連携した交流を美術館すべてでどう確保していくかということが重要。

③飲食機能

- どの美術館もレストランは大変。図書館にカフェがあるのなら、そことの連携も考えられるのではないか。すべてをやろうとするとうまくいかない。100 円でコーヒーが飲めればいい。
- レストランをなくすのは良くない。喫茶でもいいからこれからの美術館には必要。

ウ　びわこ文化公園内の連携

・　図書館が持っているコンテンツを活かして美術館側でやることもできる。例えば朗読会。お互いに知恵を持ち寄って、図書館と話をしてほしい。

エ　その他

・　人を呼ぶためには、いいものをつくるだけで話は終わらない。具体的な方策を広報も含めて考えて欲しい。
・　休館中に学芸員が積極的に地域に出て行って、様々な人と関係を築く、PR するということは積極的に取り組んでもらいたい。
・　収蔵品を民間の倉庫に預かってもらっているが、開館が延びるのであれば、収蔵施設を早めに設定しないと不要な予算を積み上げることになるのではないか。
・　近代美術館だけ再生して先に運営していくという方法論もあるのではないか。開館時期が延びるということは、それに関わる人的、金銭的なリスクが高いと思う。

（3）その他関係者・有識者

ア　プロジェクト全般

（予　算）

- 新しい美術館は将来のためにという思いは皆同じだと思う。設計は変えられない、予算も上げられないではなく、前進するためにどこかを変える必要がある。新しい美術館は決して自己満足でなく、県民が豊かに幸せになる「未来のための投資」であると説明することが必要。
- 投資を劇的に活かしたい、倍増させたいというのであれば、47 億円を遵守するのは惜しいと思う。
- 予算の上限を決めてその中ですることは、規模の縮小や機能を削ぐことになってしまう。決められた上限で何かを削減するくらいなら、予算を増やす方を応援する。
- 当初の目標と違う着地点になってまで、47 億円を使う意味はあるのか。設計図も全く新しいものにして、もう一度白紙に戻して考え直したらどうか。
- 行政機関をクローズしたりしているときに、なぜ美術館だけに金をかけるのか。再考いただいたほうがいいのではないか。

（三本柱）

- 「神と仏の美」、「近・現代美術」、「アール・ブリュット」この 3 つの視点をどう融合するのかが一番期待するところ。
- 「新生」ということなので、今までの美術館活動のプラスαの要素として、琵琶湖文化館の引継ぎとアール・ブリュットについてはしっかり行ってほしい。
- 3 本柱は実現できれば大きな目玉になるが、無理があるのではないか。

（仏教美術）

- 琵琶湖文化館の機能・価値を活用していける方法を考えてほしい。
- 滋賀県の文化財は国際的にも普遍性が高いもの。これを有効に活用できる建物をつくってお客さんに来てもらう必要がある。
- 滋賀県の古い財産である「神と仏の美」を収蔵・保管し、未来につなげる施設として、新しい美術館は絶対に必要。
- 文化財の保存も活用も機能するような質の高いものをつくることが一番大事。
- 現状で美術館の仏教美術担当は一人しかいない。ベテランも含めていろいろな年齢層に入ってもらえると安心。

（近代・現代美術）

- 新生美術館に期待することは、近代美術館の展示の継承。
- 近代美術館の柱として、アメリカのモダンアートが重点とされてきたこと、ステラ、ラスコ、スティルなど一級の作品が常時見られる美術館は他になく、目玉として素晴らしい。

（アール・ブリュット）

- アール・ブリュットに関しては、滋賀県はリードしてほしい。

・　アール・ブリュットは美術館で行う以上、社会福祉のための事業でないので、本来のアール・ブリュットの意味も含めて、滋賀県としてのアール・ブリュットを示す必要がある。
・　アール・ブリュットについては、専門的に扱っている美術館がほぼなく、美術としてどう捉えるか、考え方も定まっていない。
・　アール・ブリュット部門を新設するというが、立地を考えてもそれで本当に人が集まるのか疑問。

イ　設計の見直し

・　なるべく実施設計に近い形が望ましい。選んだ以上はSANAAの良さを最大限生かすべき。
・　中途半端にSANAAのデザインを変えたり、予算に合わすために機能を縮小するとますます目的にそぐわないものになってしまう。
・　ちょっとずつ削って落としどころを探すなんて恥ずかしいものしかできない。不可能と思うが基本的な部分を見直してもいいのでは。予算内に収めるために、行政的に全部をちょっとずつ削っていくのは良くない。
・　予算が厳しいというのであれば、建物を一つ削減するなど思い切った判断が必要になるだろう。

①展示室・収蔵庫
・　現代美術の展示に大きな展示室が必要。3つの要素をバランスよく入れるべき。
・　既存の展示室を収蔵庫にしたのはもったいない。
・　収蔵庫はどの美術館も年数が経てば必ずいっぱいになる。当館では外部倉庫の使用も考えている。

②情報交流棟
・　情報交流棟がなくなるのであれば、レファランスルームを復活させる必要がある。
・　情報交流棟は、美術館のこれからの機能、役割を考えた時にとても大事な要素。
・　取りやめるとすると情報交流棟だと思ったので、情報交流棟の取りやめは理解できる。

③飲食機能
・　少なくともカフェは必要。
・　レストランとカフェの2種類があるといい。
・　レストランは別棟ではなく、館内がいいのでは。
・　レストランは図書館に来た人も美術館に来た人も公園に来た人も使えるようなロケーションが大事。
・　フードトラックやキッチンカーを誘致してもいいのでは。
・　ワゴン販売なども考えられる。
・　レストランは場所的に収支が厳しい。

④ギャラリー・講堂

- 講堂の改修は既存館側のイメージが変わり新しくなった印象を打ち出すために重要で、無くなるのは惜しい。
- 展示スペースを確保し、県展の一期開催ができるようにしてほしい。
- 講堂をギャラリーとして使用するには、照明等を改修したら広さは足りている。
- 講堂の改修を完全に止めるというより、スケールを落とす、仕様を落とすなど、他の方法があるかもしれない。

⑤エントランス・アプローチ

- 入り口の敷居を無くすということは、まずは館に入ってもらうという点で大切なこと。
- 旧エントランスのところは、やり変えないと新しい感じがしない。

ウ　びわこ文化公園内での連携

- 図書館と美術館をつながるようにすれば行き来しやすい。図書館のレストランに行く人も増えるだろう。
- 展覧会の関連書籍を図書館においてもらうといった連携は大切。図書館を活用することで、美術館が何を訴えようとしているのかがよりクリアになる。
- 図書館と美術館はそれぞれの本筋が大切。利用者の目的が違う。

エ　その他

- 未来に向かって可能性を膨らますことができれば、民間からの支援や予算増を望む声がでてくるかもしれない。新しい美術館への投資がどのように生きていくか、また地方創生にどう役立つかが問われる。
- 民間の活用をもっとすべき。民間を呼び込んでその活力をもって、美術館の計画を推進するようなことを考えないといけない。
- 建築業界の人材、資材不足。鉄などの価格は今後どんどん上がっていく。工事のタイミングをもう少し落ち着いてから、発注の時期をずらすということもあるのではないか。
- パブリックな空間や外構は後にするとか、分離をして順番にやっていく方法もあるのではないか。
- 交通の便を優先すべき。バスルートの改善や電気自動車のような敷地内の便をよくするものを考えてほしい。
- 郊外型の美術館はトレンドとして非常に厳しい。

3　意見聴取を踏まえた今後の対応案

（1）基本的な考え方

○　近代美術館と琵琶湖文化館の課題への対応の必要性、「美の滋賀」づくりの具体的な展開への期待、県民ギャラリー拡大や情報・交流・アメニティ機能の充実など、新生美術館基本計画のコンセプトに沿った機能の確保を求める声が強く、引き続き基本計画のコンセプトの実現を目指す。

○　具体的な施設については、それぞれの機能の確保が求められているものの、運営面での対応も含めて様々な意見があり、さらに検討を深める必要がある。

（2）設計等の見直しの方向性について

○　今回の意見聴取結果を踏まえ、次のとおり論点を整理し、今後、具体的な設計の見直しの方向性についての検討を進めていく。

① 展示室・収蔵庫

・　展示室・収蔵庫については、実施設計での規模を確保した上で、仕様を精査する。

② 情報交流機能

・　情報交流機能については、これを確保することを前提に、配置等を検討する。

（論点）

・　情報交流機能を本館あるいは館外の分棟で提供する場合のメリット、デメリット

③ 飲食機能

・　飲食機能については、簡易な形態も含めて、一定の機能を確保することを前提に、配置等を検討する。

（論点）

・　運営形態および適正規模

・　設置場所は、館内か館外か

④ ギャラリー・講堂

・　講堂は、ギャラリーとして利用できるように検討する。

（論点）

・　講堂の改修の規模

⑤ 現エントランス・アプローチ

・　エントランス・アプローチについては、リニューアル感が演出できるよう、改修方法を検討する。

（論点）

・　現エントランス・アプローチ改修の規模

⑥ その他

・ その他の設計を見直すべき箇所の検討、入札参加要件の見直しの検討を行う。

4 今後のスケジュール

・平成30年4月～6月	1回目の意見聴取に対する県の考え方を関係者・有識者等へ説明、今後の設計の見直しの方向性について関係者・有識者等から意見聴取（2回目）、設計変更案の検討
・平成30年7月頃	2回目の意見聴取結果と設計変更案を議会に報告

【別紙】

◆意見聴取者

1　みんなで創る美術館円卓会議委員

アサダ ワタル	文化活動家・アーティスト / 大阪市立大学都市研究プラザ博士研究員
石川　亮	成安造形大学助教 / 美術家 / アートディレクター
北川　陽子	ファブリカ村代表 / しが中小企業女性中央会理事
木元　聖奈	（社福）グロー　アール・ブリュットインフォメーション&サポートセンターアドバイザー
佐藤　祐子	（株）国華荘代表取締役社長 / 県教育委員 / おごと温泉旅館協同組合副理事長
高橋　順之	米原市教育委員会歴史文化財保護課主査
辻村　耕司	写真家
中田　洋子	NPO法人エナジーフィールド常務理事 / BIWAKOビエンナーレ　キュレーター
西川　唱子	NPO法人結びめ / エーゼロ（株）高島しこぶち事業所
藤原　昌樹	彫刻家

（H30.1.30 会議出席者）

2　新生美術館整備推進専門家会議委員

襟川　文恵	横浜美術館広報・渉外チーム渉外担当リーダー
岡田　修二	成安造形大学学長 / 画家
髙梨　純次	（公財）秀明文化財団参事（MIHO　MUSEUM研究・展示担当）
田端　一恵	（社福）グロー法人本部企画事業部副部長
新関　伸也	滋賀大学教育学部教授 / 附属幼稚園園長
保坂　健二朗	東京国立近代美術館主任研究員
宮川　孝昭	（株）永楽屋代表取締役社長
山尾　才	滋賀県美術協会理事長 / 画家

（H30.2.6 会議出席者）

3 関係者・有識者

柳原　正樹	京都国立近代美術館館長
建畠　哲	多摩美術大学学長 / 埼玉県立近代美術館館長
島　敦彦	金沢21世紀美術館館長
土田　隆生	滋賀県造形集団世話役代表
神田　浩	（公社）滋賀県書道協会理事長
澤野　二朗	滋賀県写真連盟会長
北岡　賢剛	（社福）グロー理事長
鷲田　清一	哲学者 / 京都市立芸術大学学長
南　琢也	メディアアーティスト / 成安造形大学准教授
﨑山　美智子	(公社）滋賀県手をつなぐ育成会理事長
馬渕　直樹	日吉大社宮司
福家　俊彦	園城寺執事長
小森　文道	延暦寺副執行管理部長
鷲尾　遍隆	石山寺座主
石丸　正運	名都美術館館長
布野　修二	日本大学特任教授
三宅　正浩	成安造形大学特任准教授 / 建築家
松岡　拓公雄	亜細亜大学教授 / 建築家
大道　良夫	県商工会議所連合会会長
田中　健之	新木産業(株)代表取締役会長
川戸　良幸	琵琶湖汽船(株)代表取締役社長
藤田　義嗣	日本ソフト開発(株)代表取締役会長兼社長
山本　昌仁	(株)たねや代表取締役社長
和田　明	県立近代美術館友の会理事 / 大阪医科大学功労教授
栗原　祐司	（独法）国立文化財機構本部事務局長 / 京都国立博物館副館長
橋本　敏子	（一社）文化農場代表理事 / 元・正蔵坊と古庭園を楽しみ守る会代表

新生美術館(滋賀県立近代美術館増築・改修工事)の設計概要

☆…新設される施設　赤…常設展示室　緑…企画展示室　青…他

☆エントランス前の広場

既存館のエントランス前に、設ける広場。県立図書館側とも空間の連続性を持たせ、公園利用者を美術館に誘うとともに、ワークショップやイベントの開催にも対応する。

☆企画展示室(展示室７)

奥行き（1.8m）と高さ（4.5m）のある壁面展示ケースを備え、仏像などの文化財をはじめ、大型作品の展示にも対応できる。

面積：375㎡　天井高：4.8m
床材：フローリング

企画展示室(展示室４)

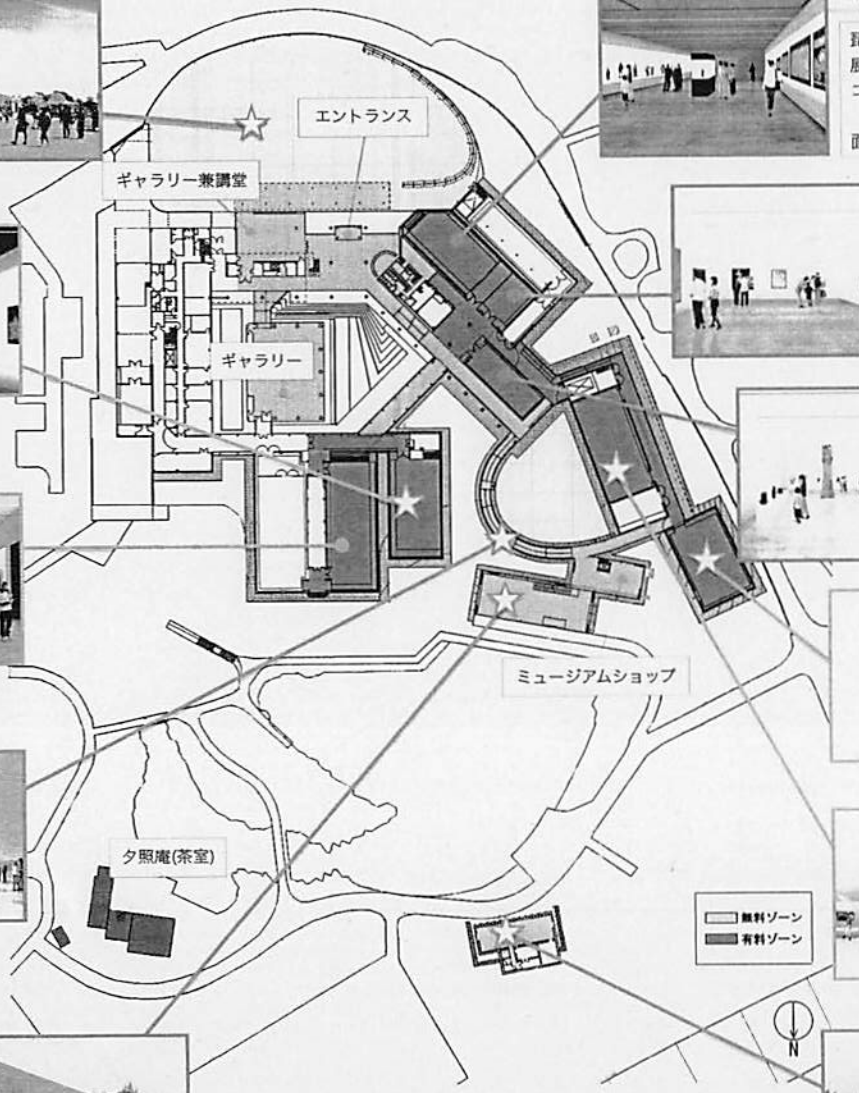
壁面展示ケースを備え、郷土ゆかりの作品や、日本美術院の作家を中心とする近代日本画をはじめ、日本美術（絵画・工芸）の作品等を展示する。

面積：486㎡　天井高：4m
床材：フローリング

☆回廊A

☆新エントランス

新たに池側にもエントランスを設けて、駐車場やバス停からの歩行時間を短縮。子どもたちが美術館や美の魅力を遊びながら体験できる「キッズスペース」も設置。



「神と仏の美」展示室(展示室１)

琵琶湖文化館から引き継ぐ数多くの指定文化財を含めた仏教・神道美術等を展示。滋賀の奥深い「神と仏の美」に関する文化も知ることが出来る導入展示コーナーも設置する。

面積：380㎡　天井高：4m　床材：フローリング

「小倉遊亀」展示室(展示室２)

滋賀県大津市出身の文化勲章授章画家、小倉遊亀（おぐらゆき）の国内最大のコレクションを紹介する。

面積：119㎡　天井高：4m　床材：フローリング

「アール・ブリュット」展示室(展示室３)

新たに収集を行う、滋賀をはじめとした国内外の「アール・ブリュット」に関連する作品の魅力を伝える。

面積：176㎡　天井高：4m　床材：フローリング

☆企画展示室(展示室６)

高い天井高を活かし、インスタレーション（空間を活かした展示）や大型の立体作品の展示など、主に現代美術の様々な芸術表現に対応できる。

面積：334㎡　天井高：6m
床材：コンクリート表面硬化仕上げ

☆企画展示室(展示室５)

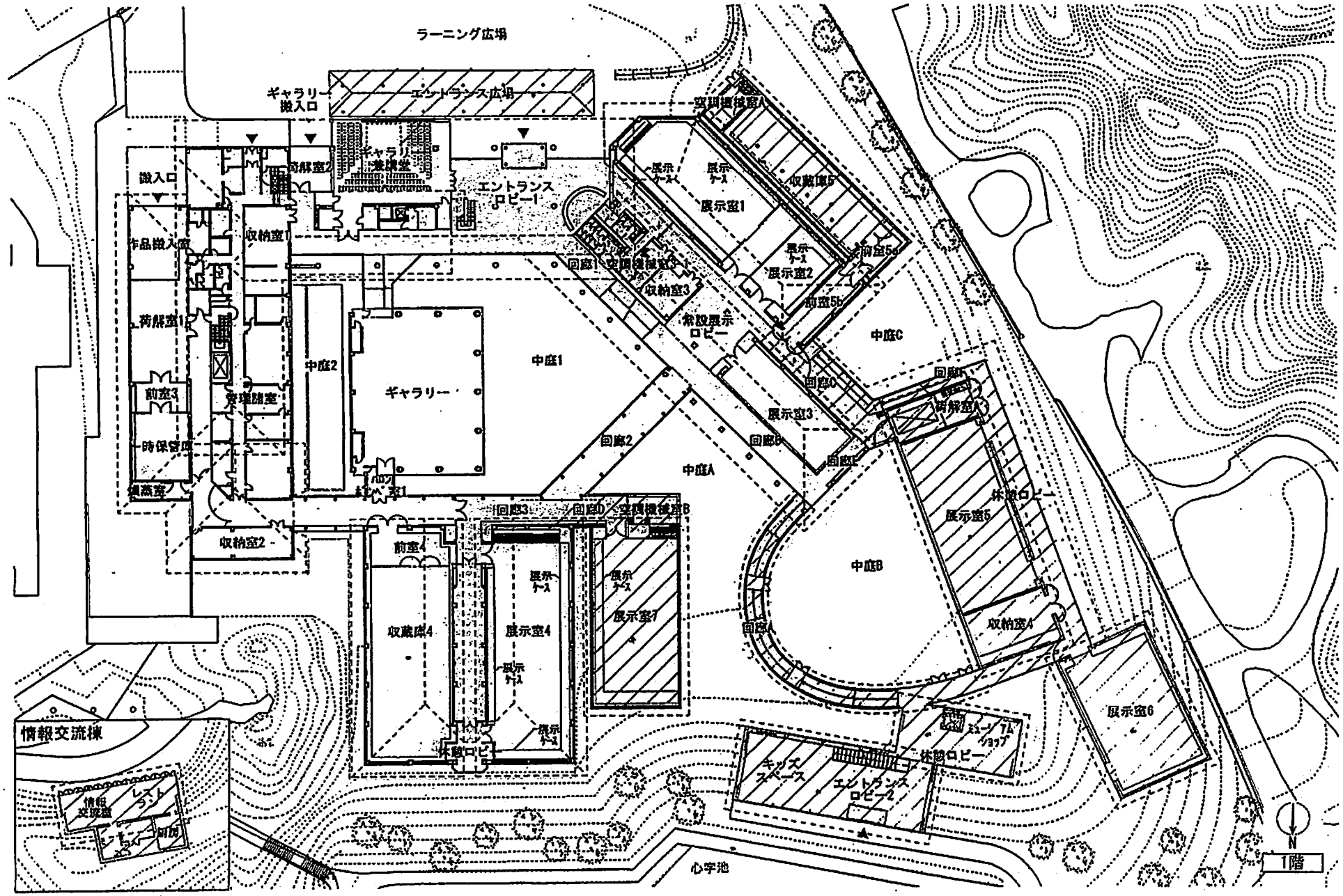
各展示室をつなぐ位置にあり、長大な壁面と中央の広い空間により、近代・現代美術作品の展示にフレキシブルに対応できる。

面積：374㎡　天井高：4m
床材：コンクリート表面硬化仕上げ

☆情報交流棟

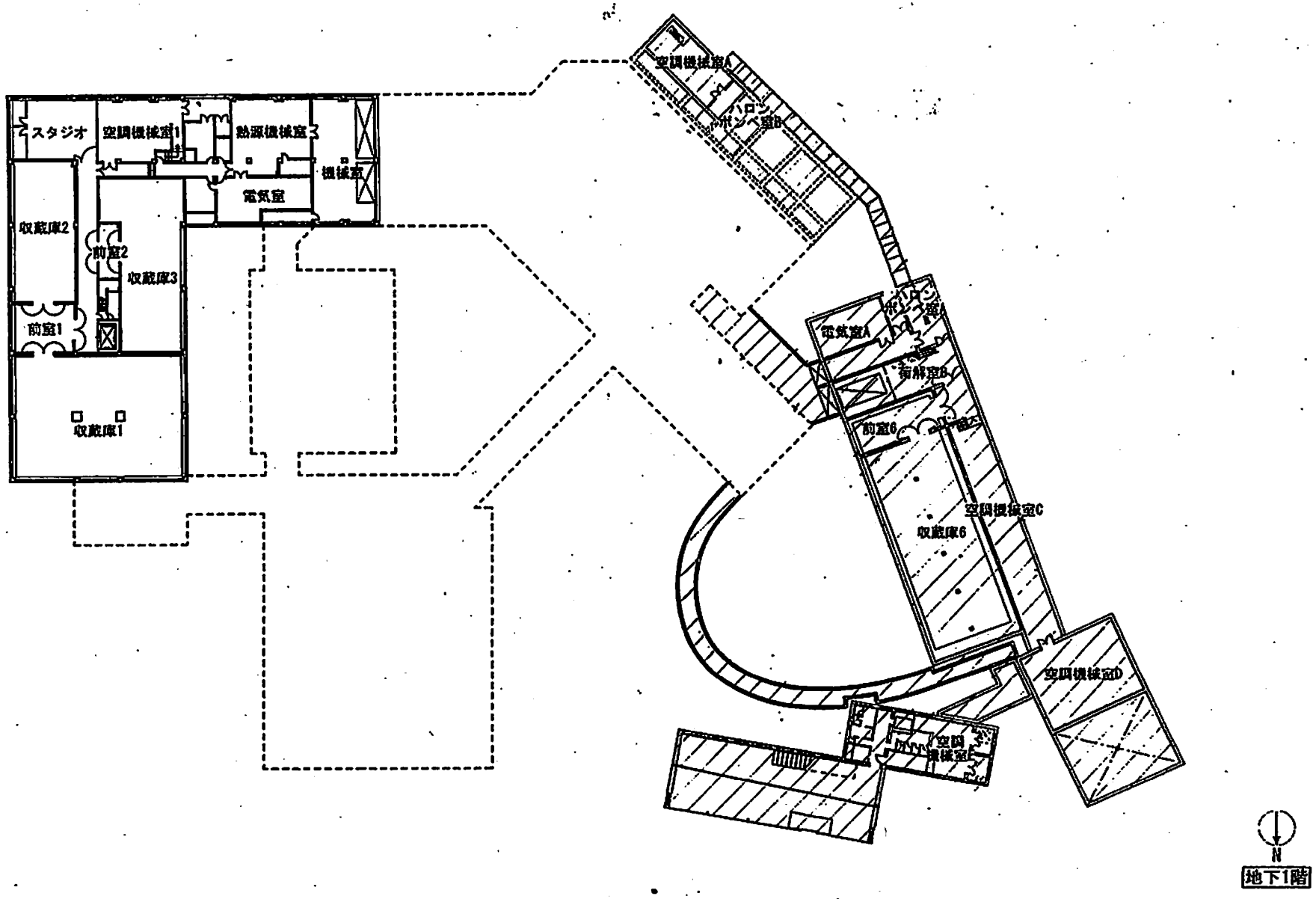
公園を眺めながら地元の食材等も味わえるレストランやショップのほか、情報収集・交流の場として多目的に活用できる。

▶平面図（1階） 新設部分

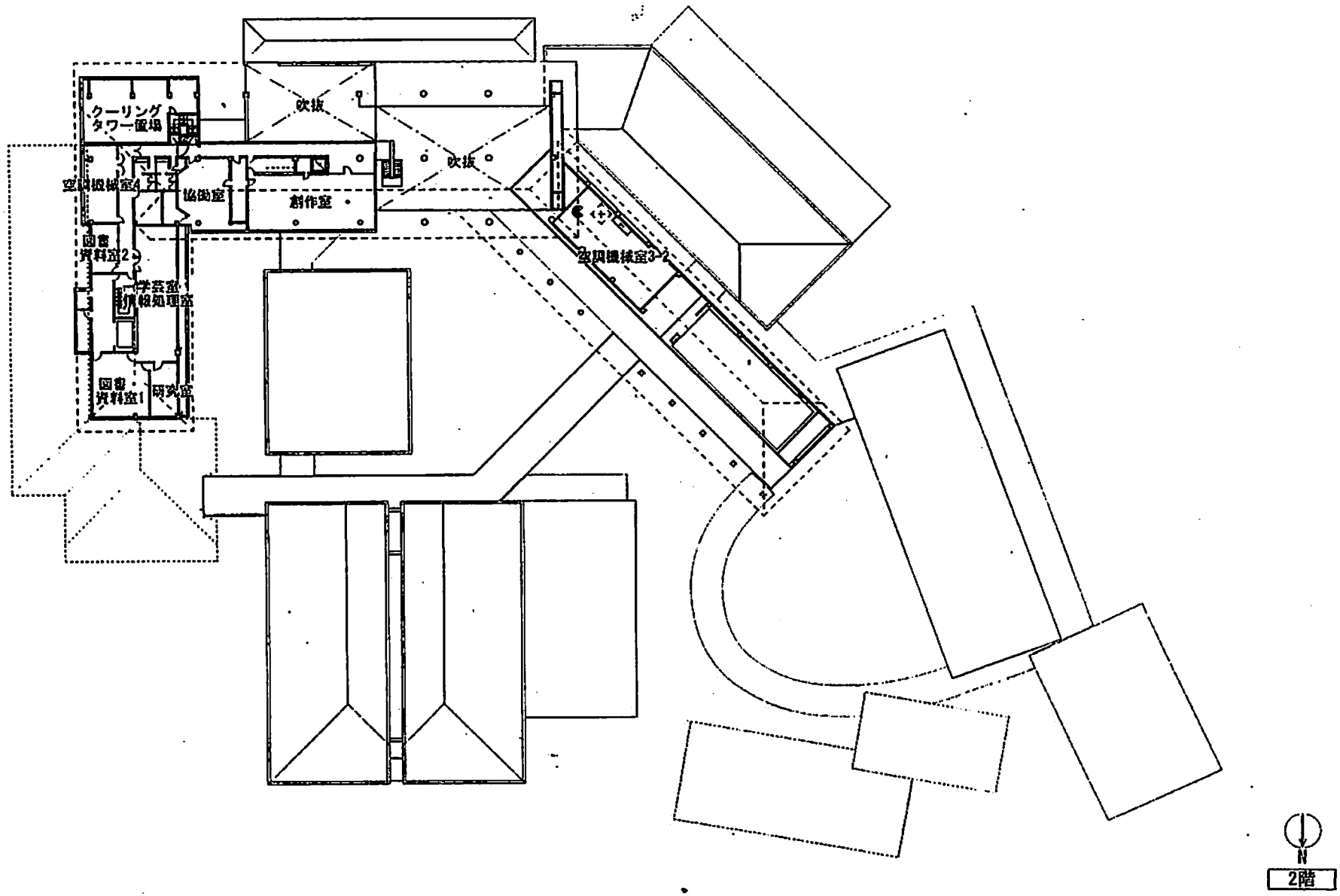
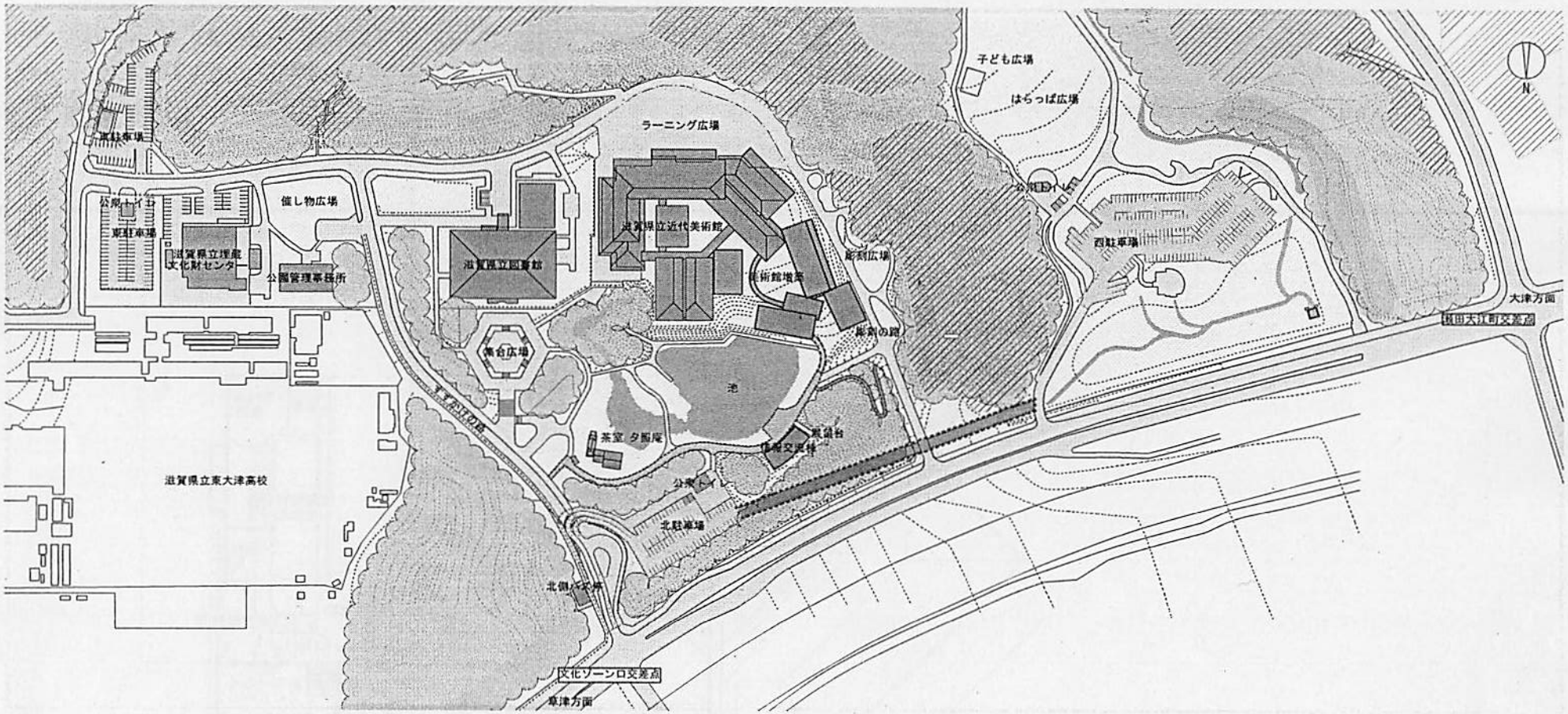

ランニング広場
ギャラリー搬入口
エントランス広場
ギャラリー教育堂
エントランスロビー1
搬入口
荷解室2
作品搬入室
収納室1
荷解室1
前室3
管理諸室
時保管庫
燻蒸室
中庭2
ギャラリー
中庭1
回廊1
空調機械室A
収納室3
常設展示ロビー
展示室1
展示ケース
収蔵庫5
展示室2
荷室5a
前室5b
中庭C
回廊C
回廊F
荷解室1
展示室3
回廊B
回廊E
回廊2
中庭A
ハロワ室1
収納室2
回廊3
回廊D
空調機械室B
前室4
収蔵庫4
展示室4
展示室7
中庭B
回廊A
展示室5
休憩ロビー
収納室4
展示室6
ミュージアムショップ
キッズスペース
エントランスロビー2
情報交流棟
情報交流室
レストラン
厨房
心字池
N
1階

▶平面図（地階）

新設部分


スタジオ
空調機械室1
熱源機械室
機械室
電気室
収蔵庫2
前室2
収蔵庫3
前室1
収蔵庫1
空調機械室A
ハロン
ボンベ室B
ハロン
ボンベ室A
電気室A
荷解室B
前室6
収蔵庫6
空調機械室C
空調機械室D
空調
機械室E
N
地下1階

▶平面図（2階）


クーリング
タワー置場
空調機械室4
図書
資料室2
学芸室
情報処理室
図書
資料室1
研究室
協働室
創作室
吹抜
吹抜
空調機械室3-2
N
2階

びわこ文化公園基本設計図